

第6学年 人権・同和学習指導案

1. 指導者 〇年〇組 担任 〇〇 〇〇
2. 日時・場所 2000年 月 日 () 5校時・教室
3. 領域 (課題) ・ 道徳 〇の12 (公正・公平・正義)
 ・ 人権学習 2-(2)ア

(いじめを無くす・全てのものが平等に生きる社会)

4. 主題 ・ いじめや弱い立場への圧力に対し、防衛的立場に立つことの問題を考える。
 (傍観することの差別性が解かる)
 ・ どのような行動をとることが人間関係や社会をよくすることになるかを考える。
 (行動のあり方を考える)

5. 資料 (出典) 「だからわるい」 オセーエリ作 西郷竹彦訳にんげん (「ともだち」にもあり)

6. 授業するにあたって

- (1) クラスと子どもの実態から

※ クラスの子もたちの人権感覚やクラス内の「いじめ」についての状況を踏まえての実態と問題を書くこと。

- (2) 資料の解釈と生かし方

※ 資料を深く読み込み、作品のもつ意味、意図、さらにはかくされた理想像

- (3) 人権・同和教育の視点からの捉え方

※ 単なる心げけや道徳的なめあてではなく、人としての生き方、他者を考えた行動、特に差別されている、除外されている側に立つことの重要性の視点を捉えること。

※ 子どもたちから導き出したい疑問や意見などの発言を考えること。

7. 授業計画

- ・ 第1時 「だからわるい」の作品を理解し、なぜ、だから悪いのかを考え合うことから、大をおっぱえば解決するのかを自分たちの生活の中で考える。

8. 本時の展開

- (1) 子どもたちのめざす目標

○ 自分自身の過去を振り返るとともに、クラスの現状も見つめる。
○ 防衛的立場は差別を認め助長することになることを理解する。
○ 差別やいじめをなくすための行動や取り組みは何かを考え合う。

- (2) 授業の流れ

時 間	子どもの学習活動	教師の働きと支援
5 分	○ 話しの流れをつかわむ	・ 誤解に時間をとらないこと
10 分	○ (前半) こんなことよくある (朗読)	・ 自分もそうなんだとの現実認識 ・ 子どもたちからたくさん体験を導き出す ・ グループでの体験交換も考える
5 分	○ (転機) 何によって変わった (番外・激愛の原因)	・ 誰によって? 何によって? ・ それはどこからきているか? (女の人の思いが解る) ・ みんなもそんなことがあったか?
10 分	○ (後半) 自分の考えがどのように変わったか (心の変化・考えの変革)	・ 自分との関係を大切に (自分との対話) ・ 心情を重視
10 分	○ (人権) それでいいのかな (深める・高める)	・ 考えを反転させる ・ 現実離れさせないこと ・ 期待する発言は (追い払うだけでいいのかな)
5 分	○ まとめ	・ 資料から離れ子ども・先生の思い ・ ものや人との関わり方のあり方 ・ すてきな自分へ (願望)

【人権教育ブロック別実践研究「学習指導案」モデル案】